

平成29年度

事業報告書



学校法人 純真学園

目 次

I. はじめに	1
II. 法人の概要	
1. 学園設立の目的	2
2. 教育方針	2
3. 法人の沿革	3
4. 設置学校	
入学者、在学者数	4
5. 役員に関する事	5
6. 教職員数に関する事	6
III. 事業の概要	
1. 純真学園大学	7
2. 純真短期大学	12
3. 埼玉純真短期大学	19
4. 純真高等学校	24
5. 法人事務局	26

I. はじめに

純真学園の歴史は、昭和 31 年、福田昌子によって「学校法人 純真女子学園」が設立されたことに始まります。

同年、私学としては福岡県において戦後 3 番目となる「純真女子高等学校」を開設し、翌昭和 32 年には「純真女子短期大学」を、昭和 42 年には「東和大学」を開設しました。

産婦人科医でもあった福田昌子は、豊富な医療経験と知識を活かして、昭和 40 年に私学では初となる衛生看護科を純真女子高等学校に設置しました。

また、東和大学においても創設当初より医療電子工学科を設け、その後、臨床工学技士の資格取得を目指せる、当時としては九州唯一の臨床工学コースを設置。常に医療の最前線で活躍する人材の育成に尽力してきました。

学園開設より 50 余年、本学園は、地域社会の求める実践的職業人を多数輩出、教育文化の振興に寄与するなど、多大な実績を上げてきました。平成 19 年度には学校法人の名称を「学校法人 純真学園」に、「純真女子短期大学」を男女共学の「純真短期大学」へと変更・改組しました。

さらに、新たな 50 年に向けての大きな一歩として、平成 23 年 4 月、医療系 4 学科を九州地区で初めて同時設置する「純真学園大学」を開学しました。

また、平成 30 年度からは、独立行政法人国立病院機構九州医療センターとの協力体制のもと、九州における看護・医療技術分野の指導にあたる高度専門医療人の育成を目的とし、純真学園大学大学院の開設を予定しています。

これからも設置校の更なる教育環境の整備及び教育の質の向上に積極的に取り組み、創設者である福田昌子の建学の精神に基づき「気品・知性・奉仕」を体現し、社会に貢献する人材の輩出を目指して参ります。

Ⅱ. 法人の概要

1. 学園設立の目的

学校法人純真学園は、教育基本法及び学校教育法に従って学校教育を行い、人間及びその社会をよりよい方向に変革しうる人材の育成を目的とする。

2. 教育方針

学校法人純真学園は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操とをもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を訓育するために、その教育方針として次の学園訓を掲げる。

「気 品」

「知 性」

「奉 仕」

「気品」 人を魅了し、良き師、良き友を得て、お互いを高め合い、他者をして犯すべからざる、精神性の高さで行動すること。

「知性」 広い視野に立ち、枝葉末節に拘泥することなく、物事の本質を見定め、考え、判断し、節度を持った行動をすること。

「奉仕」 多くの人に支えられていることに感謝し、利害得失を捨てたときに、心の底から生まれる志に準じて行動すること。

3.法人の沿革

昭和 31 年 2 月	学校法人純真女子学園設立
昭和 31 年 2 月	純真女子高等学校設置 普通科設置
昭和 32 年 3 月	学校法人純真女子学園を学校法人福田学園に名称変更
昭和 32 年 3 月	純真女子短期大学設置 国文科設置
昭和 33 年 12 月	純真女子短期大学 家政科設置
昭和 39 年 1 月	純真女子短期大学 英文科設置
昭和 40 年 1 月	純真女子高等学校 衛生看護科設置
昭和 41 年 2 月	福田学園中学校設置
昭和 41 年 2 月	純真女子短期大学附属幼稚園設置
昭和 42 年 2 月	東亜共立大学設置 工学部工業化学科・電気工学科設置
昭和 42 年 7 月	東亜共立大学を東和大学に名称変更
昭和 43 年 7 月	純真女子高等学校を東和大学附属高等学校に名称変更
昭和 43 年 7 月	福田学園中学校を東和大学附属中学校に名称変更
昭和 48 年 1 月	東和大学工学部 建設工学科設置
昭和 48 年 4 月	東和大学附属高等学校を東和大学附属東和高等学校に名称変更
昭和 49 年 1 月	東和大学工学部 経営工学科設置
昭和 54 年 3 月	東和大学附属昌平高等学校設置
昭和 58 年 2 月	埼玉純真女子短期大学設置 英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部設置
平成 12 年 3 月	純真女子短期大学英文科を英語科に名称変更
平成 13 年 11 月	純真女子短期大学附属幼稚園廃止
平成 14 年 4 月	東和大学附属東和高等学校衛生看護科を看護科に名称変更
平成 14 年 4 月	東和大学附属東和高等学校 看護専攻科設置
平成 15 年 6 月	純真女子短期大学家政科を家政学科に名称変更
平成 15 年 6 月	東和大学 工学部医療電子工学科・環境デザイン工学科・情報学科設置
平成 15 年 8 月	純真女子短期大学 現代コミュニケーション学科設置
平成 16 年 4 月	埼玉純真女子短期大学英語学科を英語コミュニケーション学科に名称変更
平成 16 年 4 月	埼玉純真女子短期大学児童教育学科をこども学科に名称変更
平成 16 年 4 月	埼玉純真女子短期大学幼児保育学科第二部を乳幼児保育学科第二部に名称変更
平成 17 年 3 月	純真女子短期大学 国文科・英語科廃止
平成 17 年 12 月	純真女子短期大学 こども学科設置
平成 18 年 2 月	純真女子短期大学家政学科食物栄養専攻を食物栄養学科に名称変更
平成 19 年 4 月	東和大学附属昌平高等学校 設置者変更
平成 19 年 4 月	学校法人福田学園を学校法人純真学園に名称変更
平成 19 年 4 月	純真女子短期大学を純真短期大学に名称変更
平成 19 年 4 月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学に名称変更
平成 19 年 4 月	東和大学附属東和高等学校を純真高等学校に名称変更
平成 19 年 4 月	東和大学附属中学校を純真中学校に名称変更
平成 20 年 3 月	埼玉純真短期大学 英語コミュニケーション学科廃止
平成 21 年 3 月	純真短期大学 現代コミュニケーション学科廃止
平成 21 年 3 月	純真高等学校 音楽科・理数科・保健体育科廃止
平成 22 年 3 月	純真短期大学 第三者評価適格認定
平成 22 年 3 月	埼玉純真短期大学 第三者評価適格認定
平成 22 年 4 月	埼玉純真短期大学 乳幼児保育学科第二部廃止
平成 22 年 10 月	純真学園大学設置
平成 23 年 4 月	純真学園大学 保健医療学部開学
平成 23 年 10 月	東和大学廃止
平成 23 年 12 月	純真保育園設置
平成 24 年 3 月	純真中学校廃止
平成 25 年 3 月	埼玉純真短期大学第三者評価適格認定
平成 27 年 3 月	純真短期大学第三者評価適格認定
平成 28 年 3 月	保育園事業(純真保育園)を社会福祉法人品へ事業譲渡
平成 29 年 3 月	純真学園大学 大学機関別認証評価適合認定
平成 29 年 8 月	純真学園大学大学院保健医療学研究科設置認可

4. 設置学校

①入学者、在学者数

設置する学校	学部学科	入学定員	収容定員	入学者数	在学者数	在学者 前年比増減
純真学園大学	保健医療学部					
	看護学科	80名	320名	90名	361名	△9名
	放射線技術科学科	60名	240名	76名	291名	7名
	検査科学科	60名	240名	71名	275名	△13名
	医療工学科	40名	160名	47名	184名	2名
小計		240名	960名	284名	1,111名	△13名
純真短期大学	こども学科	100名	200名	77名	187名	△23名
	食物栄養学科	80名	160名	53名	120名	△26名
小計		180名	360名	130名	307名	△49名
埼玉純真短期大学	こども学科	150名	300名	129名	261名	△13名
小計		150名	300名	129名	261名	△13名
純真高等学校	全日制課程普通科	190名	570名	249名	657名	△19名
	看護科	40名	120名	42名	122名	2名
	看護専攻科		80名		75名	△11名
小計		230名	770名	291名	854名	△28名
合計		800名	2,390名	834名	2,533名	△103名

*在学者数は平成29年5月1日現在の人数

*平成29年度より、純真高等学校看護専攻科の入学定員・入学者数欄を除く

5. 役員に関すること（平成 29 年 5 月 1 日現在）

① 理事（定数 5～8 名）

理事（現員 6 名）

理事長 福田庸之助（純真学園大学学長、純真短期大学学長）
理 事 藤田利久（埼玉純真短期大学学長）
理 事 米山和広（純真高等学校校長）
理 事 豊永せつ子（こどもの園純真園長）
理 事 目瀬道弘（前純真短期大学学長）
理 事 吉田寛（公会計研究所所長）

② 監事（定数 2～3 名）

監事（現員 3 名）

監 事 小鮎成忠（小鮎法律事務所弁護士）
監 事 早川勉（早川勉税理士事務所代表）
監 事 堤雅彦（堤公認会計士事務所代表）

③ 評議員（定数 11～17 名）

評議員（現員 15 名）

評議員	福田庸之助	評議員	藤田利久
評議員	米山和広	評議員	豊永せつ子
評議員	目瀬道弘	評議員	吉田寛
評議員	加藤亮二	評議員	下村久美子
評議員	中川幸広	評議員	小野英生
評議員	大山富一	評議員	坂本雅志
評議員	森岡久貴	評議員	藤渡泰輔
評議員	吉富純子		

6. 教職員数に関すること(平成29年5月1日現在)

教育職員数

(単位:人)

所属	教授	准教授	講師	助教	助手	非常勤実習助手	非常勤講師	計
純真学園大学	32 (28)	15 (17)	13 (10)	14 (17)	2 (3)	2 (4)	72 (66)	150 (145)
純真短期大学	7 (9)	3 (3)	5 (5)	3 (3)	3 (3)	1 (0)	32 (30)	54 (53)
埼玉純真短期大学	4 (5)	2 (3)	5 (5)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	26 (28)	39 (41)
合計	43 (42)	20 (23)	23 (20)	19 (20)	5 (6)	3 (4)	130 (124)	243 (239)

* ()内は平成28年5月1日現在の人数

(単位:人)

所属	教諭	常勤講師	非常勤実習助手	非常勤講師				計
純真高等学校	39 (41)	20 (15)	1 (3)	40 (39)				100 (98)

* ()内は平成28年5月1日現在の人数

事務職員数

(単位:人)

所属	専任職員	兼務職員						計
純真学園大学	20 (21)	13 (13)						33 (34)
純真短期大学	11 (11)	3 (3)						14 (14)
埼玉純真短期大学	12 (10)	7 (9)						19 (19)
純真高等学校	5 (7)	2 (2)						7 (9)
法人事務局	12 (16)	1 (14)						13 (30)
合計	60 (65)	26 (41)						86 (106)

* ()内は平成28年5月1日現在の人数

Ⅲ. 事業の概要

1. 純真学園大学

純真学園大学は、平成 23 年 4 月に保健医療系 4 学科（看護学科、放射線技術科学科、検査科学科、医療工学科）を有する大学として設置され、7 年目である平成 29 年度には 4 月に 7 期生 284 名を迎え入れることができ、年度末には卒業生 255 名を輩出しました。

以下、平成 29 年度に重点事業として実施した取組みについて報告します。

(1) 大学院開設について

純真学園大学では、平成 30 年 4 月より保健医療学部の教育内容を深化させた大学院を開設することとなり、平成 29 年 3 月末に文部科学省へ大学院設置認可申請を行い、その後認可されました。平成 25 年度に独立行政法人国立病院機構九州医療センターと締結した協定に基づき、九州医療センター敷地内の建物を活用した医療系大学院を開設します。医療センターの先端設備・機器等を学生教育に活用できるようになり、大学と医療センターが協力し九州における看護・医療技術分野の指導にあたる高度専門医療人、研究者及び教育分野の後継者育成を行います。

(2) 入学者（定員）の確保について

平成 29 年度においては、各学科とも入学定員を充足し学部入学定員 240 名を超える 284 名の入学生を確保することが出来ました。

純真学園大学のブランド力を高めるため、広報活動として本年度も公開講座、学術講演会、出前授業、サイエンスキャンプ、健康フェスティバル、育児体験教室、大学見学会等を実施しました。また、進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパス開催等本学の認知度を上げるため、様々な広報活動も行いました。特にオープンキャンパスは回を重ねる毎に高校生やその保護者等の来訪が増え、本年度の来訪者は 1,100 名を超え、そのうち学生数は 731 名でした。

平成 29 年度	看護学科	放射線技術 科学科	検査科学科	医療工学科	合計
入学定員数	80	60	60	40	240
入学者数	90	76	71	47	284
入学定員 充足率	112.5 %	126.7 %	118.3 %	117.5 %	118.3 %

(3) 収容定員増について

経営基盤を安定させるための施策の一つとして、平成 30 年度より保健医療学部の入学定員

を増加させることとなり文部科学省へ収容定員増認可申請を行い、その後認可されました。

入学定員を増加した平成 30 年度の入学者は下記のとおりとなり、入学定員 295 名を超える 307 名の入学生を確保することが出来ました。

平成 30 年 3 月 30 日現在

年度	看護学科	放射線技術 科学科	検査科学科	医療工学科	合計
平成 29 年度 までの入学 定員数	80	60	60	40	240
平成 30 年度 からの入学 定員数	100	80	75	40	295
平成 30 年度 の入学予定 者数	101	80	80	46	307
平成 30 年度 の入学定員 充足率(見込 み)	101.0%	100%	106.7%	115.0%	104.1%

(4) 国家試験について

国家試験受験対策として国家試験対策委員会を中心に、各学科において対策講座や学内・学外模擬試験、補講等を実施し合格率 100%を目指しました。

学生の国家試験に対する意識向上を図り、教職員一同全力でサポートしました。試験結果（国家試験合格率）は以下のとおりとなりました。

(新卒者のみ)

学科	看護	放射線技術科学	検査科学	医療工学
国家資格	看護師	診療放射線技師	臨床検査技師	臨床工学技士
本学 合格率	97.5 % 保健師 100 %	84.8 %	84.1 %	58.7 %
全国平均 合格率	96.3 % 保健師 85.6 %	84.8 %	90.5 %	73.7 %

受験者全員の 100%合格を目指しましたが、国家試験合格率は全学科ともすべて満足いく

結果とはなりませんでしたが。次の受験に向けて各学科とも試験結果の分析、指導体制の見直し等を行い全学科で再度全員合格に向けて取り組みます。

これまで過去 4 回の国家試験を経験し、年間を通した学生のモチベーション維持の重要性や補講の実施時期及び回数等、あるいは最終学年のみならず 1 年次からの対策実施の必要性など、今後も適宜修正を加えながら国家試験全員合格を目標としたシステム作りに全力を尽くします。

(5) 進路対策について

進路に関する相談・支援に関し、就職については進路対策委員会、SG 担任、学生センター就職係による支援体制を、進学については主に学年担任、SG 担任による支援体制をとっています。

進路対策委員会では各学科の SG 教員、就職係等と連携し学生個人に合った就職支援を行っています。また各地の大学病院、基幹病院等の医療関連施設への訪問・打ち合わせ等を通じて連携強化を図っています。

また、本年度第 4 回保護者連絡会を本学筑紫丘キャンパスで開催し、141 名という多くの保護者のご参加がありました。参加された保護者からのアンケートには「有意義であった、次回も参加したい」「もっと面談に時間をとって欲しい」「もっと前から参加すれば良かった」「学生支援の内容を長く聞きたい」「食堂のメニューを充実して欲しい」「地方でも開催して欲しい」等多くの意見がありました。

平成 29 年度卒業生の就職状況は以下の通りであり、国家試験合格者の就職率は例年 5 月末までには 100%に達する見込みです。

平成 30 年 3 月 31 日現在

	看護学科		放射線技術科学科		検査科学科		医療工学科		保健医療学部	
	全体	国家試験合格者	全体	国家試験合格者	全体	国家試験合格者	全体	国家試験合格者	全体	国家試験合格者
就職希望者数	77	75	62	52	61	51	44	25	244	203
就職者数	75	75	37	37	43	42	21	21	176	175
就職率	97.4%	100.0%	59.7%	71.2%	70.5%	82.4%	47.7%	84.0%	72.1%	86.2%

*進学者（看護学科 2 名、放射線技術科学科 4 名、検査科学科 2 名、医療工学科 2 名）及びその他（看護学科家事手伝者 1 名）は含まず。

(6) 学生の学修環境整備と新校舎建設について

以前からの懸案事項であったキャンパス内 WiFi 化について、本年度は 1 号館への配備を進めました。その他、ICT 機器の導入やキャンパス内完全 WiFi 化を目指すための情報インフラ基盤整備も行いました。

前述のとおり、平成 30 年度からは入学定員増により学生数が増えてきます。4 学科合同のチーム医療教育や多職種連携教育を行うために、大人数を一度に収容するための大規模講義室が必要となってきました。講義室に限らず実験実習室の増加も含めて新たな施設設備や新校舎の整備を検討した結果、本館横の駐車場スペースに 5 階建の新校舎を建設することが決まりました。

これを機会に正門周辺の電線、電話線、情報関係ケーブルを地下に埋設する工事も併せて実施することとなりました。

5 階建の新校舎には 1 階に歴史資料室、国際交流会議室、マルチメディア会議室等、2 階には大規模講義室、3 階から 5 階までにはシミュレーション室、最新設備を備えた看護学科の実習室等を整備します。平成 31 年 9 月竣工予定で建設工事がスタートしました。

(7) 多職種連携教育と「純真学」について

本学の教育目標は幅広い教養と高い倫理観及び医療職としての使命感を備えた人材を育成するとともに、専門性を基盤とした課題探求能力、問題解決能力、実践能力を備え、チーム医療が担える医療人を育成することです。

医療現場では「チーム医療」の重要性が増してきており、医療系の大学においては、多職種連携教育 (Interprofessional Education) に取り組むことが求められています。本学では 4 学科合同で 1 年次から 4 年次まで段階的に学ぶ多職種連携教育を行っています。この教育は、各学科の学生が職種間の相互理解を深め、患者中心の全人的医療を目指すチーム医療の一員として、平等な立場で連携・協働できる能力を育むことを目標としています。

このような教育を通して、学生はチーム医療について理解を深め、チーム医療の実践のために、お互いの職務を理解することが大切であること、職種間のコミュニケーションが大切であること等を学んでいます。

平成 28 年度からの新カリキュラム導入と共に開講された「純真学」は単なる自校教育ではなく、本学の学園訓「気品」「知性」「奉仕」を学び、建学の精神を基盤として人間力を兼ね備えた医療人育成のための科目で構成されています。

(8) 国際交流推進事業について

教員及び学生の国際的視野を広げることを支援する目的で設置された国際交流推進委員会では、海外の大学や教育研究諸機関との提携・交流協定の締結を通じて本学の国際交流を進めるとともに、夏期休暇期間を利用して教職員を含む短期研修生の派遣と受入れを積極的に展開しています。

地理的にも比較的近い韓国、台湾、中国、タイ、ベトナム、ハワイ等の保健医療系大学や病院と積極的に交流を行っています。本年度は海外からの教員や学生の短期研修受け入れはありませんでしたが、ハワイ大学へ学生 6 名、韓国圓光保健大学校、延世大学校医療院がんセンターへ学生 30 名の短期研修生派遣を行いました。新たな実績としては、11 月に

本学と中国南通大学との間で国際交流協定を締結しました。

また、8月末には韓国春海保健大学にて教職員研修を実施しました。全教職員が今後の純真学園大学を担うための意思統一を目的とするため、60名の教職員が参加しました。

(9) 純真イノベーションについて

本年度から新たに純真イノベーション推進委員会を組織しました。本学の知的・人的・物的資源を最大限に有効活用し、健康科学分野における研究・教育イノベーションを推進する全学的な取り組み及び連絡調整を行うことを目標としています。本年度事業の中での最大のイベントは総務省と角川アスキー総合研究所が中心に展開した「異能(Inno)vationアワード」に全学的に取り組み、「ジェネレーションアワード部門」に学生・教職員が応募した結果、8000件ほどの応募の中から、本学から11件(学生6名、教員5名)がノミネートされました。また、本学放射線技術科学科教員のアイデアが特別賞を受賞しました。

(10) 地域貢献事業について

本学では大学としての教育研究以外にも多くの取り組みを行っております。

地域貢献の一環として、これからの若い人材に科学への関心を高めてもらうために、毎年夏休み前後に高校1年、2年生や中学の理科の先生を対象とした「サイエンスキャンプ」を実施し、大学における専門教育の一端を体験してもらっています。また、地域への知の公開として「公開講座」をはじめ、子宮頸がん検診促進、高校への出前講義等を行い、学術講演会では医療技術の最先端を学ぶ内容として国内トップレベルの研究者を招聘し幅広く医療関係者にも公開しています。

福岡市南区との包括連携協定の事業の一環として次の事業を実施しました。小学生の夏休み期間中に「南区こども大学」を開催しました。土日や夏休み期間中に各大学がそれぞれの専門性を活かして、自由参加の小学生に対して楽しい講座を開講するイベントです。本学では、「レントゲン、電気メス等医療機器に触れてみよう」というテーマで実行し、20名の小学生と保護者が参加されました。

また、西鉄大橋駅西口広場にて、7つの大学の学生が主体となった「南区大学マルシェ」を開催いたしました。本学からは検査科学科と看護学科、純真短期大学からは食物栄養学科とこども学科の学生及び教職員が参加しました。今回のイベントは「熊本復興応援イベント」としても位置付けられ、熊本県産品の新鮮野菜やポークの販売がありました。イベントの最後には「くまもん」が登場し会場は人であふれ、のべ1,200名の来場者がありました。

このような地域のまちづくりイベントにも積極的に参加し、本学と地域の方々の交流が学問だけではなく、様々な形での地域活性化に貢献しています。

2. 純真短期大学

純真短期大学では、充実したスタッフとカリキュラム、立派な施設や設備、都心近くでありながら緑豊かな文教地区と恵まれた教育環境のもと、本学園の建学の精神を具現化するとともに、学科の教育目的に基づく一貫した教育体系を構築し、広く深い知識、高い専門性、そして豊かな人間性を合わせ持った人材を育成することを基本的な教育理念としています。

そのような基本理念のもと、中長期的な目標としては九州・福岡で短期大学としてブランド力を持つことを掲げ、以下のようなミッションを遂行しています。

- ①社会に通用する人材の育成
- ②地域から愛される大学
- ③学生、保護者から愛される大学
- ④入学定員の確保
- ⑤高い就職率の確保
- ⑥教育環境の充実
- ⑦教職協働

平成 29 年度に重点事業として実施した取組みについて報告します。

(1) 純真スタイルの確立

- ・3 つの方針（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）

策定した 3 つの方針によって、入試から卒業まで一貫した一体的取り組みが求められます。

これらをオープンキャンパスや学校見学会等の機会を利用して、高校生や保護者に対して、具体的な説明を行っています。

(2) 組織基盤の強化

- ・教育職員の能力向上

3 つの方針に関する FD 講演会を実施し、今後、このツールを活用し、学習成果を可視化することにより、学習意欲の向上を図っていきます

- ・事務職員の能力向上

「学校会計」をはじめ職員が参加した研修内容等について各担当者による研修報告を含めた SD 研修を実施しました。今後も定期的開催し、担当業務の視野拡充及び情報共有に役立てていきます。

- ・地域連携

福岡市南区との包括連携協定の事業の一環として次の事業を実施しました。

西鉄大橋駅西口広場にて、7 つの大学の学生が主体となった「南区大学マルシェ」を開催いたしました。本学からは食物栄養学科とこども学科、純真学園大学からは検査科学科と看護学科の学生及び教職員が参加しました。今回のイベントは「熊本復興応援イベント」として位置付けられ、熊本県産品の新鮮野菜やポークの販売がありました。イベントの最後には「くまもん」が登場し

会場は人であふれ、延べ 1,200 名の来場者がありました。

このような地域のまちづくりイベントにも積極的に参加し、本学と地域の方々の交流を深め、地域活性化の一翼を担っています。

(3) 経営基盤の強化

・入試広報戦略

次年度(平成 30 年度)入学予定者数は、今年度より減少しました。

今後、減少要因を詳細に分析し、新たな広報活動に取り組めます

【平成 30 年度入試状況】

(平成 30 年 3 月 31 日)

項目	学科名		
	食物栄養学科	こども学科	合計
入学定員数	80	100	180
入学者予定数	50 (53)	62 (77)	112 (130)
入学定員充足率	62.5% (66.3%)	62.0% (77.0%)	62.2% (72.2%)

()内は平成 29 年度入学者実績

(4) 就職支援活動について

就職状況は、下表のとおりです。昨年度と比較した場合、食物栄養学科では 1.2 ポイントの上昇(97.0%→98.2%)、こども学科でも 2.8 ポイント上昇(96.2%→99.0%)となりました。

【就職状況】

(平成 30 年 3 月 31 日)

	食物栄養学科		こども学科		
	全体	栄養士 資格	全体	保育士 資格	幼稚園教 諭免許
就職希望者数	56	56	102	99	92
就職者数	55	55	101	98	92
就職率	98.2%	98.2%	99.0%	99.0%	100.0%

(5) 食物栄養学科

①教育内容の充実

食物栄養学科では「気品」「知性」「奉仕」の建学の精神を反映した豊かな人間性の涵養を目指し、栄養士として必要な専門知識と技術を学び、人々の健康の維持・増進に貢献できる人材

の育成を目標として学生教育・研究活動に取り組んでいます。

教育内容の充実では、より魅力的な教育内容とするために学科内でカリキュラムの検討を行いました。平成31年度からは、学生一人ひとりが「栄養士」の専門性を活かし「食」の学びを広げることができるように、これまでのフードクリエイトコース、製菓クリエイトコースを一本化し、すべての学生が調理実習や製菓実習が学べるカリキュラムとし、栄養士の基本とされる調理技術の向上を図ることとしました。さらに、「食」をキーワードに教員の専門分野及び就職先を視野に入れたゼミを開講し、就職に強い栄養士の養成を目指します。

学科の特色ある教育として、学内インターンシップ及び食育キャンプを実施しました。学内インターンシップは、「こどもの園純真」及び「純真レストラン」のいずれかにおいて11月～3月までの期間、1年生が全員参加し、食事の提供や包丁技術の習得、マナーやコミュニケーション能力など社会人基礎力を身につけることができました。食育キャンプでは、飯塚の「庄内生活体験学校」にて6月～11月の土日に4グループに分かれて1泊2日の生活体験を行いました。食事やお風呂の準備、農場体験、堆肥作りなどを通して食といのちの関わり(食の循環)、コミュニケーション能力、基本的生活力を体得できたと思われまます。

栄養士免許および各種資格取得状況は、栄養士免許をはじめフードスペシャリスト資格は昨年度を上回った結果でした。一方、健康管理士一般指導員やフードアナリストは合格率が低下しました。家庭料理技能検定は検定内容が変更されたため比較できませんでしたが、筆記試験対策講座や実技受験対策講座を実施するなかで、学生の資格取得への高い意欲を感じる事ができました。

免許	卒業生 (人)	取得者数 (人)	取得率% (昨年%)
栄養士免許	65	59	93.7↑ (90.4)
資格試験	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率% (昨年%)
栄養士実力認定試験	59	A判定：32人 B判定：23人 C判定：4人	
フードスペシャリスト資格	36	26	72.2↑ (61.5)
健康管理士一般指導員	50	27	54.0↓ (72.3)
フードアナリスト	49	38	77.6↓ (92.2)
料検3級 筆記・実技	42・29	31・25	73.8・86.2 (-)

②教育環境の整備

大きな修理等はありませんでした。施設を改修して10年が経過するため、今後も入念なメンテナンスや修繕を図りより良い学習環境の提供に努めていきたいと思ひます。

③研究・教育

研究面では、福岡県から依頼の保育士のキャリアアップセミナーのテキストを作成しました。また、実習書や実験書を作成しました。教育面では、公開授業および相互授業参観等を通して自己研鑽に励むとともに、授業評価アンケートの結果をもとに授業改善に努めました。

④入学定員の確保

高校訪問をはじめオープンキャンパスを実施しました。また、純真高等学校をはじめ近隣高等学校の進路ガイダンスに参加しました。さらに、純真高校との関係強化のため先生方との交流会や意見交換会を実施しました。

その他、平成30年度入学予定者および1年次休学者に対してプレカレッジ(入学前教育)を実施し、46名の参加がありました。入学予定者が学校生活をスムーズに送れるように、在学生より学業への取組みや免許・資格、就職活動、卒業後の進路についての話、実習・実験の授業を体験しました。都合により欠席された入学予定者には後日実施内容を送付し対応しました。

⑤学生支援

基礎学力の低下や学習習慣が備わっていないことから、勉強の仕方、レポートの書き方など、丁寧に教育的指導を行いました。また、生活面では担任や担任でない教員も相談に応じるなど不安なく学生生活を送れるよう学生支援を行いました。

⑥キャリア教育

栄養士としての職業観育成のために、卒業生から仕事の内容、やりがい、栄養士の魅力について話をして頂きました。また、就職試験(筆記試験)の対策を行いました。その他、サービス接遇検定、日本語ワープロ検定、日本語検定の受験を推進しました。

⑦地域貢献

小学生を対象にした食に関する公開講座を2回実施しました。各講座とも定員30名を超え抽選により参加者を決定しました。講座の内容は以下の通りです。

8月21日「ランチにチャレンジ」、「サイエンスにチャレンジ」

12月23日「クリスマスケーキづくり」「キャンドル&リース作り」

また、管理栄養士受験対策講座を10月から1月に6回実施しました(開催日:10月15日、10月29日、11月12日、11月26日、12月10日、1月21日)。11名の受講申込があり外部からの参加は2名でした。

その他には、福岡市南区より依頼があり地域高齢者(筑紫丘校区)との交流会を9月12日に純真短期大学調理実習室にて実施しました。

福岡市南区主催の包括連携協定記念イベント第2弾「南区大学マルシェ～秋の収穫祭～」が大橋駅前広場で開催されました。本学科では熊本の郷土料理である「タイピーエン」と「中華おこわ」を販売しました。学生は、メニューの考案、販売などを経験するとともに地域住民との交流を行いました。

純真学園大学主催のイベント「健康フェスティバル」を大橋駅前広場において実施し、地域の方の食生活チェックや健康相談を行いました。

地域の子育て支援の一環として、南区おおはし子どもプラザにおいて、乳幼児を持つ保護者

の食事に関する相談「もぐもぐぱっくん」を10回実施しました。毎回10人から15人程度の相談を受けました。

⑧その他

昨年同様、みやぎきの豚と金柑を使ったレシピコンクールにおいて学生が考案したレシピが準グランプリを受賞しました。受賞作品「きんかんメン」を3月4日(日)に博多阪急で開催される「うまちか! ×宮崎県×大学生」にて実演販売しました。

純真高等学校より依頼がありCAT(職業観育成講座)として前期に10回(受講者22名)、後期に10回(受講者24名)実施しました。

学習の成果として、学内においてお弁当の販売を行いました。また、平成29年度の学生より学修成果を可視化するポートフォリオを導入しました。これは就職の際に自分の履歴や能力を伝え、自分に何ができるのかをアピールする大切なツールになります。平成30年の就職活動より活用予定です。

Instagramにて学科の教育内容やイベント等の情報発信を行っています。

(6) こども学科

①知名度や社会的信用を高めるための取組み

上記について、平成29年度は以下の内容について取組みました。

- ・保育教諭のための科目等履修生制度(継続)について、143名の受講者がありました。
- ・近隣園との懇談会(保育所と幼稚園を交互に実施)を2月9日に実施しました。近隣の幼稚園14園と意見交換を行いました。
- ・近隣園との行事を通じた交流について、5月22日にこどもまつり、(及び6月19日、こどもの園純真)(計5園166名参加)を、10月22・23日にこどもフェスタ(150名参加)を実施しました。
- ・社会が抱えている子育てや保育の課題を解決していくための研究や発表について、子ども、保育、教育をテーマとした紀要8件(8名)などの取組みがなされました。
- ・福岡市南区役所規格イベント南区マルシェに参加しました。学生たちが作った玩具で子どもたちと遊びを通して交流しました。(300名以上参加)

②心根の優しい保育者の養成

上記について、平成29年度は以下の内容について取組みました。

- ・4月10日に実施した「フレッシュマンセミナー」において、学長より学園訓である「気品・知性・奉仕」について学びました。そしてその3つをテーマにしたグループディスカッションに取り組みその3つのキーワードが体現できる自分になる、あるいはそのような保育者を目指すにはこれからなにをすべきか、といったことが討議されました。
- ・同じく「フレッシュマンセミナー」では、グループワークによる学内ポイントラリーを実施しました。協同的な活動に欠かせないチームワークとコミュニケーション能力を生かしながら、グル

ープのメンバーと協力して学内のポイントを探索しました。

- ・こどもまつり、こどもフェスタ、その他のサービスマーケティングを通して、子どもたちや高齢者、障害児とふれあい、心の交流を図っています。(全体で21回)。
- ・こども学科教員による、保育園での実技指導について、書道などの実技指導を実施しました。
- ・「保育・教職実践演習」において自身の保育観を言語化し、他者とのディスカッションにより多様な価値観を共有することで知識の実践活動へと繋げました。
- ・「保育教職実践活動」において保育技能実践力(ピアノ、運動遊び、環境、保健、歌遊び)を現場で活躍する先生、教員、学生の3者により到達度を確認することにより、現場に対する自信と課題への気づきを促すことができました。
- ・講義の中に、グループ活動や発表、ロールプレイを多く取り入れ、集団の中における自己を見つめ、相手の気持ちを理解することができる主体的な学習機会が持てるような工夫が「子ども理解の方法」「保育教職実践演習」におけるフォトカンファレンスをはじめそれぞれの授業ではかられました。
- ・福田昌子先生の「1日1度は体と心と呼吸を整えましょう」という教えを受けて、「子どもと身体表現」科目や「体育実技」で、ヨガやストレッチ、などを取り入れることにより自己の身体感覚への気づきが自己形成への促しとする機会としました。
- ・免許、資格取得に係る実習前には卒業生や現場の園長、医療保育士、施設保育士から子どもの様子や実習生としての心がまえ等について、お話をいただいています。
- ・7階にある多目的演習室を子育てサークル「ふたごの会」に月に1回(5月～3月)、開放しています。学生が、双子の親子と継続的にふれ合うなかで、子どもの発達や遊び、保護者の育児不安、子どもへの思い等を知る、学ぶ機会となっています。学生は「保育者として」の意識も芽生え、主体的に活動をしています。
- ・2017年3月30日実施の「プレカレッジ」や2018年2月3日実施の「3者合同就職ガイダンス」において卒業生をトークゲストに招きました。日々の授業と実習に対する心得や学生生活へのアドバイス、あるいは就職や保育現場の実際そして保育のやりがい等の話を聞きました。
- ・FD主催で相互授業参観を行いました。

③埼玉純真短期大学との交流企画

「暮らしと環境」科目で、「伝統文化や歴史を学ぶ」をテーマに、和菓子づくりや藍染の体験、江戸の町散策を実施しました。本学からの参加者は8名(1年生)でした。

④卒業生に対するケア

上記について、平成29年度は以下の内容について取り組みました。

- ・ホームカミングデーを実施し、27名が参加しました。

- ・就職園訪問の実施(継続)について、実習園訪問を兼ねて 31 園訪問しました。
- ・卒業生へのアンケートを実施する際にコメント(寄せ書き)を作成しました。
- ・卒業生に対しては種々の相談に対応し、卒業後もケアをおこなっています。

⑤空間整備(学生のリラックスできる)とマナーアップ

上記について、平成 29 年度は以下の内容について取り組みました。

- ・8 階ピアノレッスン室の使用について、利用者の便を図るため、長時間利用者や目的外利用者との調整を図るため指導を行いました。
- ・季節感のある環境について、継続的に整備しました。

⑥資格・免許

資格・免許	卒業者数(人)	取得者数	取得率
保育士資格	104	100	96%
幼稚園教諭	104	96	92%

⑦認定資格

平成 29 年度の資格取得状況は、以下の通りです。

- ・レクリエーションインストラクター資格(日本レクリエーション協会)取得について、19 人が資格取得しました。
- ・認定ベビーシッター資格(全国保育サービス協会)取得について、66 人が資格取得しました。
- ・ピアヘルパー資格(日本教育カウンセラー協会)取得について、30 人が資格取得しました。

⑧高大連携

上記について、平成 29 年度は以下の内容について取り組みました。

- ・純真高等学校 CAT 支援として前期 8 回 25 人、後期 8 回 21 人の講義を実施しました。特に後期は在宅保育特別履修生の単位取得に繋がる特別講座として実施しました。
- ・藤蔭高等学校在宅保育特別履修生の単位取得に繋がる特別講座を実施しました。

3. 埼玉純真短期大学

(1) 学生数安定的獲得(本学財政基盤の安定強化)

<入学定員 150 名の確保>

平成 31 年度入学生 150 名を目指して、入学者の質を高めながら量的にも安定させたいと募集活動を行ってきました。平成 30 年度入学生募集は 132 名と昨年の 129 名を上回ったものの当初予定の 135 名には届かない結果となりました。

入学者/オープンキャンパス参加者										
活動年	入学者		参加者数 ・ 参加回数							
	総数 (人)	入学者 / 初回 (%)	初回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回
2014	136	32.3	421	153	87	47	27	16	6	2
2015	135	35.1	385	121	71	33	18	8	4	2
2016	129	34.4	375	120	65	32	9	6	3	0
2017	132	35.4	373	116	53	11	8	1	0	0

しかし、外部評価委員会での高等学校長の話からも本学の教育についての評価は高まってきたことは確かであるといえます。このことは高等学校在学中の成績から見ると入学者の質の向上は、授業担当教員からの学生に対する授業態度などの言葉からも実感しています。しかし、この4年間の募集活動における入学者の質の向上から、量と質の向上を目標に入試委員会、IR委員会や運営委員会などをはじめ全教職員で検討を加え、次年度の学生募集計画を考えております。



まずは今年度の反省から次年度のオープンキャンパスへの参加者を増やすことはもちろんのこと、その後のオープンキャンパス参加者が入試へ結びつく方策を考え、初回参加者の45%、2回以上参加者の75%の受験率を確実にすることから始めなければならないと考えております。

先に述べた本学学生への高い評価は、本学主催の就職説明会(マッチングフェア)には近隣(関東一円)からの説明会参加希望の幼稚園・保育所・こども園・福祉施設など130施設以上からの申し込みがあることでも証明され、良質な就職先への就職に確実に結びついています。

この件については本学の評価の大きな要素の一つとして今後も継続していかなければならないと考えています。

(2) 修理・整備計画(学生サービス充実・向上)

<トイレ・正門等の整備>

高校生や学生に魅力的な教育・学習環境提供のため、学生の安心・安全なキャンパス生活のために修理・修繕と整備を継続しています。特に学習環境面では昨年度末の「私立大学活性化総合支援」の補助金によりアクティブ・ラーニング教室の整備で、教員の教授方法もアクティブ・ラーニング方式を採り入れ、学習効果も高まりつつあります。



安全・安心面を保証する設備関係では、プールや屋上の油タンク・貯水タンクなどの撤去や 30 年を経た建造物の修理・修繕・塗替えが今後の課題として残されているものの、正門周辺の修復・整備や外部評価委員会からの指摘事項でもありました学生の快適環境整備の一環としての学習棟のトイレ改修が無事終了しました。学生にはたいへん好評となっています。来年度以降は研修等や管理棟のトイレ改修、羽生病院移転に伴うキャンパス周囲のフェンスの塗り替えや修理を行わなければならないと考えています。



(3) 広報活動(イメージ定着と地域貢献)

公共の場においても徹底的に“Junshin”ブランドの定着化を図ることについては、すべての発行物やオリジナルポロシャツなどをはじめ従前からの羽生駅構内、本学近くの電柱をはじめとして、学生や一般の方々の目につく場所に看板を掲げるなどで周知しています。今年度は久喜市のアリオ鷺宮のフードコートを加え、常に“Junshin”が目につくようにしています。

また、教職員による近隣教育機関への出前講座・学生と教職員による地域ボラ

ンティア活動・地元小学生の本学見学をはじめ地域の行政・企業・教育機関と連携した活動、公開講座・研究セミナーなどを開催し、教育活動を通して地域の人々に学びを提供することにより“Junshin”の定着を図っています。

(4) 実習・進路支援と学生生活活動(学生の個性に合わせた指導)

1年生9月の幼稚園観察実習から始まる実習支援には実習指導委員会メンバーをはじめクラス担任、ゼミ担当教員、実習事務担当者が情報共有を図りながら学生の実習支援を行っている結果、実習先からも埼玉純真の学生は安心ができるとの評価を受けています。

平成29年度 実習園 実習人数

区分	学年	期間	公立	人数	公こ	人数	私立	人数	私こ	人数	合計(人)
幼稚園	2年生	5月-6月	15	24	1	1	65	74	16	28	127
幼稚園	1年生	9月-9月	12	14	1	1	68	89	19	23	127
保育所	2年生	6月-7月	31	33			78	95			128
保育所	2年生	9月-9月	26	28			72	82	施設	17	127

区分	学年	期間	施設数	合計
施設	1年生	1月-3月	60	125

進路についても実習の流れの中で、1年生からキャリア科目「キャリアデザイン(選択2単位)」を授業に盛り込み、進路指導委員会主催の「キャリアガイダンス(5時限実施)」などで学生に自身の将来像をできる限り具体的に意識付けをしています。さらに2年生ではゼミとクラス担当教員が学生生活から進路まで一貫して適切な指導を事務局と密な連携を図り、協同して学生の進路支援を行っています。さらに保育・教育・福祉などの就職予定先から担当者を招き、本学独自の就職説明会(マッチング・フェア)を開催するなど卒業生の100%就職を達成しています。

就職状況(2018年3月)

卒業者数	就職希望者	内定取得学生数			決定率	マッチフェア	選択率
		合計	県内	県外			
128	126	126	96	30	100%	56	44.4%

1名：手術のため、1名：進路変更 2018年3月8日現在

(5) 教職員の質的向上(教育力・指導力・業務力・実習・就職指導力の充実・向上)

FD&SDをいっそう充実させ「教授方法」「教職員の態度や意識」「業務効率」等の向上を目指し、「外部評価委員会」などの第三者による評価・点検の他、「教育研究会(特別支援教育セミナー)」や「教員・職員表彰」などをこれまでとおりに実施しました。

免許資格取得状況

資格組み合わせ	人数
幼2	2
保育	2
幼2 保育	122
無し	2
卒業者合計	128

また、「実習の手引」や「進路の手引き」なども毎年見直しを図り、学生に役立つ、分かりやすいものを作成するとともに学習・教育効果向上を意図して科目間の関係を明確にした「カリキュラムの系統図」の見直しを行いました。

(6) 授業の展開への新たな取組み(学生教育充実)

ICT設備の充実・アクティブ・ラーニング方式推進については、教員が自らの授業改善を図るためにも努力しております。この授業実施報告をFD&SD推進委員会主催の報告会で共有しています。さらに、教員(科目)間の連携をいっそう密にし、学生への授業をいっそう効果的なものとするために常勤・非常勤を交えた意見交換会も平成 30 年度を見据えて3月に行いました。

(7) 学生の人間力向上(より良い保育者養成)

本学の建学の精神「気品・知性・奉仕」を理解し、社会人として必要な基礎的な教養と常識を身につける授業科目(保育者のための社会人基礎講座)を設け、教職員がその模範を示していくことにより学生の日常的な



態度もさらに良いもの

のようになってきています。この延長線上で、将来保育者として活躍するおりに教育愛を子ども達に自然体で伝えられるような教育・学習活動推進のために、保育に関する専門的知識や技術の達成目標を定め、その達成度を計る取組み(純真検定の制作)に着手しました。



(8) 社会的活動へのより積極的実施(教育研究力のアピール)

これまで取り組んできた公開講座や研究セミナーを市民や地域教育関係者・高校生・卒業生(リカレント教育)を対象に拡大し、本学の研究・教育活動を活発化させ、地域社会へ貢献するとともに本学の教育の質の高さのアピールをすることができました。

公開講座や研究セミナー等は地域と本学との教育活動でのブリッジであり、本学の教育財産によるサービスであることを意識して、広く市民の理解と協力を得て、地域に根差した埼玉純真短期大学として本学の位置づけを意識しながら、さらなる社会活動の定着化を図っています。これをより質の高いものとするためにも、教員の研究活動(執筆・発表など)は従来どおり年1回以上の研究発表やペーパーの作成を義務付けています。



地域・高校・大学との連携協定

2014年11月	羽生市と地域連携協力協定
2014年12月	県立誠和福祉高校との高大連携協定
2015年2月	県立進修館高校との高大連携協定
2015年11月	県立羽生第一高校との高大連携協定
2017年10月	行田市教育委員会との地域連携協力協定
2017年3月	サラスワティ外国語大学との交流協定
2018年3月	国立ガネシャ教育大学との交流協定

さいごに

18歳人口が減少する今後10年を見通して挑戦をするならば、入学対象者の枠を拡げるためにも入学金や授業料の枠を取り払うなども考えなければならぬと思います。そのためにも本学が置かれている現状・現実・現物を見つめ、物理的資源の構築物をはじめとする施設設備の修理・修繕はもとより、人的資源については次世代を担う人財(変化に柔軟に対応できる教員や職員)の確保を考えなければならぬと考えています。

地域貢献(主な事項)

項目	対象	人数	場所	回数
1日大学生	市内6小学校	213名	本学	5回
高大連携授業	誠和福祉高校生	112名	本学	3回
	誠和福祉高校生	40名	高校	1回
	進修館高校生	120名	高校	6回
	羽生第一高校教員	3名	本学	1回
子ども大学	市内小学生(中学生)	23(10)名	本学他	4回
ボランティア	スマイル幼稚園		水族館	4回
	キャラクターサミット羽生		水上公園	2回
	キヤッセ祭		きやっせ羽生	2回
	五霞町祭		五霞公民館	1回
	ムジナもん学寮		公民館	2回
	他、保育所や障がい施設			

これまで修理・修繕など学習環境整備のために、少しずつですが内部留保の確保を目指してきましたが、予想外に発見される修理・修繕箇所に大幅支出を余儀なくされ、この計画を十分に達成することができていません。

しかしながら、将来を見据え、さらなる安定と発展を求める場合にも、学生の学習環境をさらに向上させ、本学の評価を高めなければなりません。そのため、経費節減に目を向けるだけでは、く収入増を意識した大学マネジメントを行う施策が重要であると考えています。

4. 純真高等学校

学校法人純真学園の理念に則り、建学の精神のもと 5 年後 10 年後、更なる未来を見据えた教育と学校運営に向けての取り組みを展開しています。

(1) 教職員の研修等

外部講師による研修会(進路、人権、包括支援 等)や校内研究授業の実施、他校の公開授業研修など積極的に参加し、意識改革、入試制度改革への対応など研鑽を積んでいます。生徒の授業評価を受けて各教員にそのデータに基づき改善を促すと共に生徒への聞き取り調査も行い、各教員に更なる改善を求めました。また職会を通して全員に共通の指導法の問題点の理解を求めました。各教員が改めて授業への改善に取り組んでいるところです。また担当授業時間もホームルーム、総合学習を含め 18 時間に設定するよう努めました。さらにクラス編成も県の指示に基づき普通科 40 名基準の編成が 30 年度に向けて全学年で準備できました。

(2) 進路指導

進路担当・就職担当者の連携により概ね希望進路に別表の通り進学・就職を果たしています。

普通科212名

進路	大学	短大	専門学校	就職	未定(浪人)
実数	69	31	76	22	14

- ・大学・・・国公立大学、西南学院、福岡大 他
- ・短大・・・純真短大、福岡女学院 他
- ・専門学校・・・医療、美容、スポーツトレーナー、自動車 他
- ・就職・・・各方面100%

(3) 生徒指導

指導部・担任・包括支援・カウンセラーの連携により退学者は前年より減少しています。前年比-37ポイント(28年度46名、29年度29名)となり目標は達成できました。

(4) 看護科・専攻科

看護師国家試験(正看護師)の現役合格率 100%は達成できた。1クラス制ながら12名の教員と実習指導担当で指導に当たることができ、落ち着いた環境で学習と臨地実習が行われています。新たな実習施設も順調に確保できています。

*平成 29 年度専攻科修了生 38 名

	純真高等学校	全国平均
看護師国家試験合格率	100%(現役)	91%

*本校准看試験合格率 100% 就職率 100%

*既卒者が 3 名受験し、不合格。既卒を加算すれば合格率93%

(5) 生徒会・部活動

体育祭・文化祭など生徒会主導で活発な活動が展開しています。部活動も県大会への出場など活躍しています。

(6) 国際交流

7回目となった成歡高等学校(ソンファン)交流は順調に行われており、今年度も13名の生徒が参加し、韓国の学校生活やホームステイを体験。平成30年5月下旬に韓国より来日来校のうえ交流を予定しています。

また、ニュージーランドの高等学校を4校訪問した結果、本校の事情などを考慮し2校を交流対象校、留学推薦校として現在交渉を進めています。

(7) 広報活動

順調な広報活動を展開し、入学定員を充足できました。定員に対する充足率を限りなく110%程度に収めるよう募集対策を講じます。

	普通科	看護科・専攻科5年一貫
定員(230)	190	40
入学者	243	35
定員充足率	128%	87%

新入生全体 入学278名 充足率120%

高校全体 定員690名 在籍776名 充足率112%

(8) 外部関係

保護者会との関係は良好で各学校行事、教育諸活動には有形無形の支援協力を頂いています。支援学校との交流や地域中学への施設の貸与など関係は良好です。

5. 法人事務局

学園の経営の基本となる中期計画として平成 28 年度～平成 31 年度までの 4 か年計画の 2 年度目となる法人事務局の事業を展開いたしました。

平成 30 年度純真学園大学大学院の設置に伴い、寄附行為変更認可申請書の手続きを行い、認可を受けることが出来ました。文部科学省による運営調査が行われ、学園運営に貴重なご意見をいただきました。

毎年度進めています規程の整備を就業規則関連規程、事務組織規則、経理規程並びに関連規程について行いました。

大学において、新棟建設計画が行われ、資金調達計画を策定しました。

施設面においては、純真学園大学の新棟建設計画予定地に武道館が立地しており、一部解体減築を行い構造補強する計画を進めていたが、構造補強が困難なことが判明し、安全性の面から、全部を取り壊して、平成30年度に剣道場を新築することとしました。その間 1 号館に剣道場・トレーニング室を整備しました。

新棟建設は平成30年2月に着手し平成31年秋の竣工を目指しています。

その他に法人事務局として設置学校の人事関連業務、経理関連業務、管財関連業務について連携を図り支援を行ないました。

今後も中期計画に基づき、財政計画を策定し、強固な経営組織体とすることを目的に取り組んでいきます。

(1) 総務関連

① 諸規程の整備

平成 29 年度は、前年度に引き続き就業規則関連規程について「よりわかりやすく」するための改正を行いました。

平成 29 年度から法人関連規程の定期点検を開始し、点検の結果、平成 29 年度は18規程をより適切な表現に改めました。規程の定期点検は次年度以降も年に1回実施します。

② 寄附行為変更認可申請関係

平成 30 年度に純真学園大学大学院を設置することに伴い、平成 28 年度から、寄附行為の変更認可申請に関する準備を開始し、平成 29 年 6 月には寄附行為変更認可申請書を文部科学省に提出いたしました。寄附行為の変更については、平成 29 年 8 月 29 日付で文部科学省より認可を受け、平成 30 年 4 月から、純真学園大学大学院が開学いたしました。

③ 学校法人運営調査について

平成 29 年 10 月 5 日に、文部科学省による学校法人運営調査が本学園において実施されました。運営調査委員からは、法人の管理運営や、教学面について貴重なご意見をいただきました。

学校法人運営調査の結果は、平成 30 年 3 月 8 日付で通知があり、1 件の指導・助言事項と 1 件のその他の意見が付され、いずれも規程の整備に関する内容でした。

これらの指導・助言事項や意見については、速やかに規程を整備することで対応し、文部科学省に「改善報告書」を提出しました。

④監事監査支援

私立学校法に定められている監事による監査をより充実したものにするため、監事監査規程により、監査計画、監査の実施および監査実施報告書作成など監査支援を行ない、評議員会・理事会に報告しました。

⑤課員のスキルアップ

平成 29 年度は、特に人事関連の分野におけるスキルアップを目標として、外部研修に積極的に参加しました。また、毎月行っている総務課のミーティングにおいて、学校法人関連の法令や、労働基準法関連の法令について、内部研修を実施しました。

⑥純真レストランの外部委託

平成 28 年度まで純真学園が運営していた学生食堂「純真レストラン」を経営効率化および品質・サービス面の向上を目的として、平成 29 年 4 月から食堂運営を外部業者に委託しました。

(2) 財務関連

①新棟建設費資金の調達

新棟建設費の資金調達計画を自己資金および借入金による割合並びに調達先の策定を行ないました。借入金は上限の設定、借入期間並びに年度ごとの返済額などを考慮し、安定した内部留保を持続させるための資金計画を行った結果、市中金融機関と私学事業団から併用調達することとしました。

②監査法人の監査と監事監査の連携支援

毎年度、監査法人監査初日に理事長、監事及び監査法人の三者でディスカッションを実施しており、平成 29 年度においても事業計画、中期計画、監査法人監査の概要及び監事監査の概要等について実施しました。法人事務局では職員 3 名が同席し、進行や記録の支援を行いました。

③スキルアップのための外部研修受講および係内 SD 研修の実施

業務の効率化と、適正な会計処理及び補助金申請業務に繋げることを目的とし、下記の研修に参加するとともに、係長がチューターとなり研修を実施しました。

《外部研修内容》

- (1) 学校法人会計関連研修
- (2) 資金運用関連研修
- (3) 大学経理部課長相当者研修会

《係内 SD 研修内容》

- (1) 学校法人会計基準(第1条～第4条)
- (2) 経常費等補助金の仕組みと算定方法
- (3) 学校法人で常用される用語解説

(3) 施設設備関連

①中長期施設設備の更新・修繕計画の策定

平成 27 年度から行っている教育研究環境の維持向上と施設設備の安全確保を目的に、中長期施設設備の更新・修繕計画の改訂版を作成しました。建物の維持、環境整備について、建物の巡回調査を行い、S・A・B・C ランクに評価を実施し、中長期的な視点で更新・修繕計画を立案しました。この更新・修繕計画は、今後とも継続し、中長期計画の策定に施設設備の更新・維持管理、環境整備を織り込んでいきます。

②大学新棟建設への支援

大学が平成 30 年度からの収容定員増への対応と、競争に打ち勝つチーム医療を特色とした教育研究体制の充実向上をコンセプトに新棟建設に向けて基本設計、実施設計を大学と協議を積み重ね平成30年2月に地鎮祭を執り行い平成31年秋の竣工を目指して着手しました。

③キャンパス整備計画

新棟建設に伴い電線等地中埋設及び既存設備盛替工事を並行してキャンパス内の景観整備についても新棟建設に合わせて着手しました。

④武道館解体

大学新棟建設の計画地に武道館が立地しており、一部解体減築を行い構造補強する計画を進めていたが、構造補強が困難なことが判明し、安全性の面から全部を取り壊して、平成 30 年度に高校棟西側に新たに剣道場を新築することとしました。その間 1 号館に剣道場・トレーニング室を整備しました。

⑤既存施設調査に基づく是正計画

新棟建設にかかる既存不適格建築物に対して福岡市と協議を重ねて、建物及び擁壁の調査・分析を行い是正工事期間及び是正総工事費用について評議員会・理事会に報告しました。是正工事のうち、平成 29 年度から行う工事について補正予算に計上し実施しました。

⑥遊休不動産の売却

東京都世田谷区粕谷の遊休不動産について、売却を進めていたが売却先の選定を行い評議員会の意見を聞き、理事会の承認を得て売買契約を締結し、売却を行ないました。

⑦電気需給契約の見直し

新電力事業は近年市場が変動しており2年に1回の契約見直しを実施しております。今回結果として福岡キャンパスで 18,000 千円/年間の電気料金削減が見込める契約を締結しました。

以上